

# 西山 茂名誉教授 略歴

## (生年月日)

昭和27年10月3日

## (学 歴)

1975年 慶應義塾大学 経済学部卒業

1977年 慶應義塾大学 経済学研究科修士課程 修了

1978年 慶應義塾大学 経済学研究科博士課程 退学

## (学 位)

経済学修士 (慶應義塾大学)

## (職 歴)

1978年4月～1989年3月 経済企画庁 総理府事務官

1989年4月～1992年3月 大阪大学 社会経済研究所 助教授

1992年4月～1997年9月 小樽商科大学 商学部 助教授

1993年4月～2004年3月 小樽商科大学 大学院商学研究科兼任

1997年10月～1999年3月 小樽商科大学 商学部 教授

1999年4月～2000年3月 小樽商科大学 商学部経済学科長

2004年4月～2016年3月 小樽商科大学 大学院商学研究科 教授

2016年4月～2018年3月 小樽商科大学 大学院商学研究科 特任教授

## (所属学会)

日本統計学会 (1996年-1998年 和文誌編集委員会委員)

応用統計学会

## 西山 茂名誉教授 研究業績

### [1] 学術論文

1. 「家計調査データの統計的特性—マイクロデータセット構築に関連して—」, 経済企画庁経済研究所『季刊国民経済計算』, 第90号, 22-47頁, 1991年8月
2. “Consistency between Macro- and Micro-Datasets in the Japanese Household Sector” (coauthored with Atsushi Maki), *Review of Income and Wealth*, Series 39-2, pp.195-207, 1993
3. 「マクロ勘定の基礎と標本統計利用の問題」, 小樽商科大学『商学討究』, 第44巻第4号, 171-192頁, 1994年3月
4. “Implication and Quality Characteristics of the Family Income and Expenditure Survey of Japan, 1984-88”, *Journal of The Japan Statistical Society*, Vol. 24-1, pp.89-104, 1994
5. “An Analysis of Underreporting for Micro-data Sets: The Misreporting Model or Double Hurdle Model” (coauthored with Atsushi Maki), *Economics Letters*, Vol.52-3, pp. 211-220, 1996
6. 「e-Learningは効果的な教育方法か?—展望と試み—」, 小樽商科大学『商学討究』, 第57巻第1号, 13-34頁, 2006年7月
7. 「e-Learningは効果的な教育方法か?—データ解析—」, 小樽商科大学『商学討究』, 第57巻第2・3合併号, 1-23頁, 2006年12月
8. 「レジームスイッチングと景気動向指数の有効性」, 小樽商科大学『商学討究』, 第60巻第2・3合併号, 45-70頁, 2009年12月

### [2] 著書

1. 『楽しい統計学セミナー』(同文館出版), 1998年5月
2. 『基礎の徹底 統計学』(エコノミスト社), 2003年10月

3. 『Excelでわかる数理統計学』(エコノミスト社), 2004年10月
4. 『経済経営のための統計学』(共著, 有斐閣), 2005年4月
5. 『MBAのためのビジネスエコノミクス』(共著, 同文館出版), 2012年4月

### [3] 学会報告, プレゼンテーション等

1. “Logical Foundation of the System of National Accounts and Problems in its Integration with Microdata”, Special Seminar, 東北财经大学, 大连市, 中国, 1992年8月
2. “A Triple Hurdle Model: An Extension of the Deaton and Irish’s Misreporting Model” (collaborated with A. Maki), Twenty Fourth General Conference of the International Association for Research in Income and Wealth, Lillehammer, Norway, August, 1996
3. “A Triple Hurdle Model: An Extension of the Deaton and Irish’s Misreporting Model” (collaborated with A. Maki), Special Seminar, Luxembourg Income Study, CEPS/INSTEAD, Luxembourg, August, 1996
4. 「なぜ家計調査統計は過小か」, 日本統計学会第64回大会, 千葉, 1996年9月
5. “Data Problems and Uses of Data in Policy Formation”, JICA Seminar for Uzbek Government, The Academy of State and Social Construction under the President of the Republic of Uzbekistan, Tashkent, Uzbekistan, March, 1997
6. 「家計調査の過小性に関するDeaton-Irishモデルの拡張」, 日本統計学会第65回大会, 大阪, 1997年7月

### [4] 評論, 書評, その他

1. マクロ統計とミクロ統計の整合性—家計調査による消費データの特性について—, 統計情報研究開発センター『ESTRELA (エストレーラ)』, 1995年5月号

2. 「耐久消費財需要とCensored Modelの改良」, 小樽商科大学情報処理センター『広報』, 第9号, 1996年3月
3. 書評「計量経済学の理論と応用」(蓑谷千風彦著), 『日本統計学会誌』, 第27巻, 第3号, 1997年12月

#### [5] 社会・教育活動

- 北海道長期経済モデル開発調査委員会委員 (北海道), 1994-95年
- 小樽市商業振興策検討委員会委員及び同委員会幹事 (小樽市), 1995年
- まちづくり地域活性化推進委員会委員 (小樽市), 1996年
- 北海道道民経済計算調査委員会委員 (北海道), 1996-98年
- 財務行政モニター (北海道財務局), 1996-1999年
- GDP速報化検討委員会並びにワーキンググループ委員 (経済企画庁), 1998-99年
- GDP速報値検討委員会 (経済企画庁, 内閣府), 2000-2001年
- 家計サテライト勘定研究会 (経済企画庁, 内閣府), 2000-2001年
- 北海学園大学経済学部非常勤講師 (現代経済理論担当), 1993-1998年
- 北海道大学経済学部非常勤講師 (統計学担当), 1997-2011年
- 国学院大学短期大学部非常勤講師 (経済入門担当) 2008-2009年